

「福祉心理学研究」和文論文執筆の手引き  
(2003年6月7日以降の投稿原稿より適用)

・原稿の仕様

1. 原稿の構成は原則として次の通りとする。
  - 1) 連絡票
  - 2) 表紙
  - 3) 和文要約(キー・ワードを含む)
  - 4) 本文
  - 5) 文献(引用文献・参考文献)
  - 6) 図表
  - 7) 英文要約(Key Words を含む)
  - 8) 英文要約の邦訳
  - 9) 投稿承諾書
2. 原則としてワープロを用い、A4判用紙に上下、左右に3cm程度の余白をあげ、25字×32行(800字)で印字された原稿を提出する。A4判用紙の原稿2.5枚は刷り上がり1頁に相当する。
3. 本文、文献、図表、要約を全て含めた論文の刷り上がり頁数は、原著論文、展望および実践研究については10頁、資料および研究時評については7頁を上限とする。なお、やむを得ず規定を超過した頁に要する経費は投稿者負担とする(当分の間、負担額は超過1頁につき10,000円)。要約を除く論文の長さ(本文、文献、図表)は、原著論文、展望および実践研究についてはA4判用紙の原稿22.5枚まで、研究時評および資料については15枚までとし、それを越えた枚数の原稿は受理されないことがある。図表は刷り上がり頁数をA4判用紙原稿に換算して含める。図表のA4判用紙原稿への換算は、それぞれの図表が本誌刷り上がり頁で占める割合に2.5を乗じたものとする(図表が本誌刷り上がり半頁であれば、 $0.5 \times 2.5 = 1.25$ (枚)となる)。

・提出原稿部数およびフロッピーディスク

1. 原著論文・資料・展望の原稿については、オリジナル1部とコピー3部(計4部)を提出する。
2. 研究時評・実践研究の原稿については、オリジナル1部とコピー2部(計3部)を提出する。
3. オリジナル1部には連絡票をつける。
4. コピー原稿の表紙には論文の種類と表題のみを記し、著書名、所属は記さない。
5. 論文が採択された後、当面は図表を除くすべての原稿内容がテキストファイル形式(txt)で保存されたフロッピーディスク(3.5インチ)1枚を最終原稿とともに提出する。
6. フロッピーディスクにはラベルを貼付し、著者名、論文の表題、論文の種類、を右記の記入例のように明記する。著者が多数の場合は2名程度に略してよい。
7. フロッピーディスクを用意できない場合は、その旨を連絡票の

|   |
|---|
| ・鈴木太郎・田村花子ら<br>・                    における                    に<br>およぼす××××の効果<br>・原著 |
|---|

フロッピーディスクのラベルの記入例

## ・連絡票

連絡票には、下記の から までの事項を一括して一葉に記す。

連絡先氏名・住所：〒000-0000 八千代市保品1 - 2 - 3

成徳大学教育学部 鈴木太郎

電話番号 : 0 0 0 0 - 0 0 - 0 0 0 0

ファックス番号 : 0 0 0 0 - 0 0 - 0 0 0 0

e-mail アドレス : suzuki@seitoku-u.ac.jp

原稿の枚数 : 本文 枚 (刷り上がり頁数換算で . 頁)

図 枚 (刷り上がり頁数換算で . 頁)

表 枚 (刷り上がり頁数換算で . 頁)

写真 枚 (刷り上がり頁数換算で . 頁)

和文要約 枚

英文要約 枚

同日本語訳 枚

採択された場合のフロッピーディスク提出の可否 : 可 (ワープロソフト名)

## ・表紙

表紙には、下記の から までの事項を一括して一葉に記載する。

論文の種類別 : 原著論文、資料、展望、研究時評、実践研究の種類別を明記する。

表題 : 論文内容に即したものとし、一連の研究の場合は類似した表題は避ける。

例 : 「  
における  
におよぼす × × × × の効果」

著者名 : 著者が複数の場合は[・]で区切る。

例 : 鈴木太郎・田村花子

所属機関名 : 大学の場合は、学部名等も記す。

例 : 成徳大学教育学部

(以下は原著論文、資料、展望のみ)

表題の英訳 :

例 : Effects of × × × × on in

著者名のローマ字表記 : 原則としてヘボン式を用いる。

例 : Taro SUZUKI and Hanako TAMURA

所属機関名の英訳 :

例 : Faculty of Education, University of Seitoku

所属機関所在地のローマ字表記 : 市名、郵便番号 ( 7 桁 ) のみとする

例 : Yachiyo-shi, 000-0000

## ・和文要約とキー・ワード

原著論文、資料、展望、実践研究には、400 字以内 ( 25 字 × 16 行 ) の和文要約と 3 ~ 5 項目の和文キー・ワードをつける。それぞれのキー・ワードの間はスペースで区切る。

## . 本文

### 1. 論文構成に用いる記号

論文構成に用いる記号はローマ数字(全角) 算用数字(全角) 両括弧付算用数字(全角)の3段階程度とし、細かくなり過ぎないようにする。また、見出しのあとにはピリオドをつけない。

- (1) 大見出し：ローマ数字を用い、上に1行をあける。
- (2) 中見出し：算用数字を用い、上に行をあけない。左端から1字あけて書く。本文は改行して始める。
- (3) 小見出し：(1)のように算用数字に両括弧を付け(ともに全角サイズ) 上に行をあけない。左端から2字あけて書き、コロン(:)で区切って本文を書き始める。
- (4) これ以下の小見出しについては左端から2字あけることとし、記号は著者の用いたものをそのまま用いる。

### 2. 表記について

- (1) 記号：以下の記号を用いることができる。

| 記号            | 使用例                              |
|---------------|----------------------------------|
| 中点(・)         | 並列する同種の語を列挙する場合。                 |
| ハイフン(-)       | 外国語の対語・対句の連結の場合。                 |
| 引用符(“ ”または「」) | 引用文に用いる。                         |
| 括弧            | ( )または[ ]を用いる。                   |
| コロン(:)        | 例、説明などを導く場合などに用いる。               |
| セミコロン(;) )    | 引用文献を列挙する場合、あるいは検定結果を列挙する場合に用いる。 |
| 省略符(…)        | 引用文の一部あるいは前後を省略する場合に用いる。         |

- (2) カタカナ：本文中の外国語の使用はできるだけ避け、原則として日本語化した外国語を記述する時にのみ用いる。
- (3) 数字：原則として算用数字を用いる。
- (4) 略語：一般に用いられているものに限る。ただし、必要な場合には、初出の時にその旨を明記する。
- (5) 検定結果の表記：各種統計的検定の結果を示すときには、以下のように検定統計量、自由度ならびに有意水準等を明記する。

( $F(1/50) = 7.05, p < .05$ ) ( $t^2(5) = 1.54, p < .05$ ) など

$F, t, p$  などは斜体(イタリック)とすること

## . 文献

1. 引用文献：本文において引用されたすべての文献を、著者名のアルファベット順に論文の後に「引用文献」として一括して記載する。同一著者の複数の文献は発行年順とする。同一著者による同一年の文献が含まれる場合は、発行年の後に小文字のアルフ

アベットを付けて区別する。

2. 参考文献：本文中に引用はしていないが論文内容と密接に関連し、特に紹介すべきであると考えられる文献については、「参考文献」として、「引用文献」の後に同様に一括して記載する。著書については、頁数の記入はなくてもよい。

3. 引用文献および参考文献の書式

(1) 雑誌：著者名(西暦年) 題目・雑誌名, 巻数(必要な場合は号数), 開始頁 - 終了頁.

(2) 著書：著者名(西暦年) 書名・出版社, 出版地, 開始頁 - 終了頁(必要な場合).

(3) 分担執筆：著者名(西暦年) 章題・編者名(編), 書名・出版社, 出版地, 開始頁 - 終了頁.

(4) 訳書：原著者名(西暦年) 原書名・出版社, 出版地, 訳者名(西暦年) 書名・出版社, 開始頁 - 終了頁(必要な場合).

欧文の書名(原書名)および雑誌名は斜体(イタリック)とする。

和文著書の場合、出版地は省略する。

例：

|   |   |
|---|---|
| 鈴木太郎・田村花子(2002)社会福祉施設職員の研究(第1報). 福祉研究, 3(1), 63-71.   | (1) 雑誌(和)   |
| Cooper, S. A., Bucy, A., & John, R. (2001) Early onset of autism. <i>International Journal of ***** Education</i> , 56, 692-700.  | (1) 雑誌(欧):<br>著者3名以上では<br>&の前に(,)を必ず入れる。雑誌名は斜体。                               |
| 田村花子(2002a) 障害の医学. と科学社, 12-15.   | (2) 著書(和):  |
| 田村花子(2002b) 障害の医学. と科学社, 120-128.   | 同一著者・年はa,b<br>で区別。  |
| Wilder, L. (1991) <i>Neuroanatomy of autism</i> . The ***** Press, London.  | (2) 著書(欧):<br>書名は斜体。  |
| 田村花子(1975) 障害幼児. 鈴木太郎(編), 障害の心理学. 文化科学社, 11-49.   | (3) 分担執筆(和)   |
| Miller, S. R., Miller, C. S., Dolan, J., & Anderson, J.A. (1999) Down syndrome: Cognition, behavior, and genetics. In A. M. Korenberg & D. Atkinson (Eds.), <i>Handbook of ***** disorders</i> . ***** Press, New York, 61-115. | (3) 分担執筆(欧):<br>編者1名:(Ed.)<br>編者複数:(Eds.)<br>編者3名以上は&<br>の前に(,)を挿入。<br>書名は斜体。 |
| Knight, L. & James, W. (1999) <i>Educating and understanding ***** syndrome</i> . Wing Press Inc., California. 田村花子・鈴木太郎監訳(2002) 症候群への発達支援. 成徳学術出版社, 32-45.   | (4) 訳書<br>原書名は斜体。   |

#### 4. 本文中の引用の仕方

著者名の省略は避け、全員の名前を明記する。ただし、著者が3名以上である場合は初出時のみ全員の名前を明記し、その後は「(筆頭著者名)ら」(欧文の場合は「(筆頭著者名) et al.」)と記す。著者が複数の場合、著者名の連記は以下の例に従うこととする。

##### (1) 文中の場合

例： 鈴木・田村(1981)および佐藤(1980)は…  
佐藤・鈴木・小川・池田(1963)は…。…佐藤ら(1963)…。  
Sturges and Martin(1974)は…。(&記号は用いない。著者が2名の場合、andの前に(,)を入れない。  
Wallach, Newman, and Rosenzweig(1974)は…。…Wallach et al.(1974)によると…。(著者が3名以上の場合、andの前に(,)を入れる)

##### (2) 文末などの( )内の場合

例： …と指摘されている(鈴木・田村, 1981; 佐藤, 1980)。  
…と指摘されている(Wallach, Newman, & Rosenzweig, 1974; …)。  
&の記号を用いる。  
引用文献が複数の場合はセミコロン(;)で連ねる。  
カッコ内の引用順は、論文末にあげる引用文献の順に準ずる。

##### (3) その他文献研究等ではつぎの表記とする。

例： …と指摘されているが(Martens [1965] 56) これを否定する見解もある(Farrell [1970] 121)。

#### . 図表及び写真

1. 図表の表記：引用順に Fig. 1, Table 1 のようにする。
2. 図表および写真の数：必要最小限のもののみ、合計5点前後とする。
3. 図表・写真の用紙：原則としてA4判の白紙を使用し、用紙1枚につき図表・写真等各1点とする。
4. 図表・写真の大きさ
  - (1) 原稿刷り上がり時にスペースも含め、本誌1ページの半幅(70mm: 片段)または全幅(150mm: 段抜き)に収まる大きさとする。
  - (2) 図表は、原則として刷り上がり時の2倍の大きさで作成する。
  - (3) 図表は本文に比べ大きな紙面を要するので、その割合で文字数に換算し、所定の枚数を超えないように注意する。
5. 図及び表中の註：いずれも図表の下部に、右につめて記す。図、表、写真などの題説明文、図表中の文字は英文に統一してもよい(資料1・資料2参照)。
6. 表作成上の注意：原則として、縦線は用いず、また横線はなるべく少なくする。
7. 本文の右横の空白に図表及び写真の挿入箇所を指定する。
8. 写真などの製版に要する費用は投稿者の自己負担とする。

#### . 註釈

必要がある場合は、本文中にその箇所を明示したうえで、<sup>1) 2)</sup>----のように上付きで通し番号をつけて註を付す。また、本文と文献欄の間に、すべての註を1) 2)----のように番

号順に記載する。

例：本文 Martens の現状擁護の主張(Martens [1965] 56) に対して、Farrellはそれとは異なる立場<sup>1)</sup>をとる(Farrell [1970]121)。

註欄 1) Martens の理解に対立する Farrell の見解は、----という主張にみられるように(Farrell [1970] 129)、特殊教育のみならず、社会的環境の変化に基づいているのは明らかである。

2) ---

3) ---

#### X . 英文要約

原著論文、資料、展望には英文表題、200～300 語以内の英文要約、3～5 項目の英語の Key Words をつける。その際、下記の諸点に留意すること。

- (1) 熟達した人の英文であるか、その校閲を経ていること。
- (2) 白紙のA 4判用紙にダブルスペースで印字すること。
- (3) 和文要約とは別に、英文要約の邦訳を必ずつけること。

#### XI . 投稿承諾書

論文を投稿する場合には、本手引きの最終頁にある投稿承諾書を1部提出すること。

資料1 表の書式

題は表の上部

Table 1

太く

| 群 | Word Perception |     | Word Memory |     |
|---|-----------------|-----|-------------|-----|
|   | 平均              | SD  | 平均          | SD  |
| A | 37.9            | 6.7 | 23.1        | 5.2 |
| B | 39.3            | 6.8 | 25.0        | 4.2 |
| C | 40.4            | 6.6 | 25.0        | 4.6 |

太く

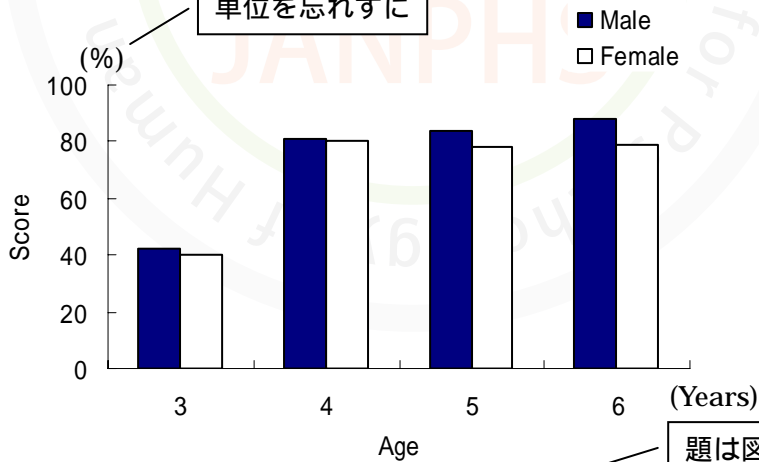
表の説明 \* 右につめて記す.

- ・縦線は用いない.
- ・横線は最小限で.
- ・要点をコンパクトに記し, 大きすぎる表は作らない.

表および表注では文の句読点としてカンマ(,)とピリオド(.)のみ用いる

資料2 図の書式

単位を忘れずに



題は図の下部

Fig. 1

図の説明 \* 右につめて記す.

図注では文の句読点としてカンマ(,)とピリオド(.)のみ用いる

## 投稿承諾書

下記の論文を「福祉心理学研究」に投稿いたします。なお、本論文は他誌に掲載済みのもの、あるいは掲載予定のものではありません。また、貴誌に掲載後、本論文の著作権は、日本福祉心理学会に帰属することを承諾いたします。

筆頭著者：氏名 \_\_\_\_\_ 印  
                  会員番号 \_\_\_\_\_  
                  所属 \_\_\_\_\_

論文題名： \_\_\_\_\_  
                  \_\_\_\_\_

共著者：氏名 \_\_\_\_\_ 印  
                  会員番号 \_\_\_\_\_  
                  所属 \_\_\_\_\_

共著者：氏名 \_\_\_\_\_ 印  
                  会員番号 \_\_\_\_\_  
                  所属 \_\_\_\_\_

共著者：氏名 \_\_\_\_\_ 印  
                  会員番号 \_\_\_\_\_  
                  所属 \_\_\_\_\_

共著者：氏名 \_\_\_\_\_ 印  
                  会員番号 \_\_\_\_\_  
                  所属 \_\_\_\_\_

年 月 日 提出